

1 倉庫地区

大きな溝と材木堀で嚴重に囲まれた倉庫が発見されています。古代の役所には、その地域の税を納めた「^{しょうそう}正倉」がありました。牡鹿郡内から集めた税（稲など）を納めていたのでしょう。



材木堀と溝に囲まれた倉庫

2 たちいん 館院1地区

東西約 110 m、南北約 60 m の院で、内部からは 30 棟以上の建物が見つっています。院内や周辺から「^{とねり}舎人」「^{おのねり}牡舎人」と刻書された土器がまとめて出土していることから、当時舎人（貴族の警備や雑用に従事した人）として都に出仕していた丸子・道嶋氏の居宅（館）だったと考えられます。また、院の南西隅には八脚門があり、その南には南北に 200 m 以上も続く運河も発見されています。



建物跡



運河跡

3 たちいん 館院2地区

館院1地区と同規模の院で、建物の配置も似ています。内部からは南面に廂を持つ 5 間×3 間の大型建物（およそ 84 m²）や倉庫、竪穴建物などがみつっています。館院1地区よりも大型の建物が多く、中には地面を粘土で整地しているものもあります。居宅（館）の可能性が考えられます。



整地された建物の基礎

4 たちいん 館院2地区 南方院

館院2地区の南に隣接する東西 35 m、南北 39 m の院です。内部の建物は左右対称に配置され、多くの建物が粘土で整地されています。白壁で仕上げた建物も見つっています。蝦夷の土器や牡鹿郡内の「郷」（現在の村）の名が墨書された土器が出土していることから、南方院は蝦夷との交流や饗宴、儀礼を行う院であった可能性が考えられます。



南方院想像図

5 がいかくしせつ 外郭施設

遺跡の南東辺で材木堀と大溝が見つっています。また、東辺でも材木堀が発見されています。材木堀は木材を隙間なく並べて、蝦夷や外敵からの攻撃に備えた軍事的な施設で、ほぼ同じ場所で造り替えられていることから、重要な施設だったことがわかります。



南東辺の材木堀と大溝の跡



倉庫地区で見つかった土器



文書事務に使った木簡（「海道二番」）



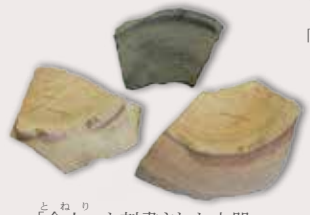
文字を書くために必要な円面硯



鉄製の矢じり 馬具とみられる鉄製品 鉄くぎ



「牡」と刻書された土器



「舎人」と刻書された土器



「牡舎人」と墨書された土器



内外面に漆が付着した土器